

科目名	音楽基礎B4						年度	2026	
英語科目名	Basic Theory of Music B4						学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 2年次	必/選	選	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	恒枝賢治		教員の実務経験	有	実務経験の職種		ミュージシャン		

**【科目の目的】**

音楽の譜面を読むだけでなく、ライブやコンサートにおいて不可欠な「電気」に関する基本的な知識を獲得していく。家庭用コンセントについての基礎知識も学び、良質な音響を提供するためのスキルを磨く。

**【科目の概要】**

譜面が読めて普通にプレイ出来る…に留まらず、昨今のライブ、コンサート等で不可欠な「電気」についての基礎知識…家庭用コンセント1口には約100V/15Aという電気が出ていて…という初歩的な事を習得する…等、お客さんが聴くに耐える「良い音」について触れる。

**【到達目標】**

- A. 接触不良について理解し、簡単なハンダ付けによって、接触不良を回復させることができる
- B. 配信アプリについて理解し、管理画面におけるパラメータを理解し、チャンネルアナリティクスを読むことができる
- C. 複数の音響装置を適切なケーブルを選択して接続し、音を鳴らすことができる

**【授業の注意点】**

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A	接触不良について理解し、簡単なハンダ付けによって、接触不良を回復させることができる		簡単なハンダ付けができる		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	配信アプリについて理解し、管理画面におけるパラメータを理解し、チャンネルアナリティクスを読むことができる		配信アプリについて理解できる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	複数の音響装置に適切なケーブルを選択して接続し、音を鳴らすことができる		複数の音響装置を適切なケーブルを選択して接続できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要
到達目標 D					
到達目標 E					

**【教科書】**

適時、講師より教材を配布する。

**【参考資料】**

必要に応じて、プリントを配布する

**【成績の評価方法・評価基準】**

評価基準はルーブリック評価に基づき、授業内試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		音楽基礎B4			年度	2026
英語表記		Basic Theory of Music B4			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	前期復習	基礎知識確認	1 復習の重要性	前期内容の理解確認	3	
			2 前期知識の確認	基本技術の自己評価		
			3 総合的な復習	総合的な知識定着		
2	ベース録音法	アンプ技法研究	1 ベース録音法	ベース録音手法把握	3	
			2 ベース録音EQ	ベース用EQ設定ができる		
			3 ベース録音コンプ	ベース用コンプ適用ができる		
3	ボーカルEQ法	エフェクト調整法	1 ボーカルEQ理解	ボーカル向けEQ選択ができる	3	
			2 ボーカルコンプ理解	ボーカル用コンプ理解ができる		
			3 ボーカル録音法	ボーカル録音技術向上		
4	ドラムEQ法	エフェクト調整法	1 ドラムEQ理解	ドラム専用EQ設定ができる	3	
			2 ドラムコンプ理解	ドラム用コンプ理解ができる		
			3 ドラム録音法	ドラム録音の技術向上		
5	ギターEQ法	エフェクト調整法	1 ギターEQ理解	ギター録音のEQ設定	3	
			2 ギター録音法	ギター用コンプ適用ができる		
			3 ギター録音コンプ	ギター録音技術の向上		
6	ベースEQ法	エフェクト調整法	1 ベースアンプEQ	ベースアンプ用EQ理解	3	
			2 ベース音作り	ベース音色作成ができる		
			3 ベースアンプコンプ	ベース録音のコンプ理解		
7	ギターアンサンブル	演奏研究	1 ギターアンサンブル	ギターアンサンブル調整	3	
			2 ギター音作り	ギター音色作成ができる		
			3 アンサンブル理解	ギターの役割認識ができる		
8	ベースアンサンブル	演奏研究	1 ベースアンサンブル	ベースアンサンブル調整	3	
			2 ベース音作り	ベースの役割認識ができる		
			3 アンサンブル理解	ベース音色の深化		
9	周波数帯域学	音質分析技術	1 周波数帯域把握	周波数帯域の理解	3	
			2 周波数衝突理解	パート間の調和ができる		
			3 混合音作成	混合音の最適化		
10	エフェクター理解	エフェクト調整法	1 キーボード理解	キーボード音色の理解	3	
			2 前後感の把握	楽器間の前後感把握		
			3 エフェクター理解	エフェクター利用の理解		
11	空間系技法1	エフェクト調整法	1 空間系理解(1)	空間系エフェクトの基礎	3	
			2 エフェクト使い方	エフェクトの設定技術		
			3 空間作成	リバーブ&ディレイの理解		
12	空間系技法2	エフェクト調整法	1 空間系理解(2)	空間系エフェクトの応用	3	
			2 エフェクト応用	応用エフェクト設定技術		
			3 空間応用	アンビエンス作成の技術		
13	録音体験1	録音の段取り確認	1 全内容体験(1)	録音素材の総合運用	3	
			2 実践録音理解	実践的録音技術の向上		
			3 素材使いこなし	総合的な音作り技術		
14	録音体験2	録音の段取り確認	1 全内容体験(2)	総合的な素材運用の理解	3	
			2 実践応用理解	全授業内容の実践運用		
			3 総合演習	演習を通じた技術定着		
15	まとめ	総合技術評価	1 総合的理解	音楽制作の総合力向上	3	
			2 知識統合	総合的な技術評価		
			3 授業総まとめ	授業内容の自己反省		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他  
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった  
備考 等